

週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月4日(火)

《飼い主のいない羊のような私たち - イエス様の痛みを理解し、実行しましょう - 》

今日の福音(マルコ6・34-44)を読んで、このようなことを考えました。

「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ」という表現がありました。そしてその後イエス様は、「教え始められた」と書かれています。ということは、本当に深く憐れみ、真剣に心をこめて、感じたことやもどかしい心、やり直してほしい心について説教した、ということです。そして、話すことに集中しすぎて、日が暮れ、食事の時間になっていることにさえ気づかれなかったのでしょうか。そのくらい一生懸命に話をされた、ということですよね。しかし、その話しを聞いていた『飼い主のいない羊のような』人々のうち、最後の十字架の道まで一緒について行った人は何人くらいいたのでしょうか。そういうことを考えてみると、少し悲しくなります。

時々、同期生の司祭達と酒を飲みながら話し合うことがあります。話の中で、「司牧という仕事は、本当に難しく、もうこれ以上できないと思う。」と落ち込んで話す仲間もいます。そんな時私は、半分は冗談、半分は悲しみをこめて、「イエス様も失敗したのだから、そのようにがっかりする必要はないだろう。全知全能のイエス様でも、十字架を負って歩む時に何人くらいの人が傍に残ったと思うか。だから、そのようにがっかりする必要はないよ。この世の中の限界だよ。」と言います。これは、半分は励ましであり、半分は自分達を慰めようとする話です。

実際に、私にはそのような経験も結構あります。たとえば、自分の国の言葉で、自分が育ってきた環境の中で話をすれば、一つ話ただけで10の実りがあったかもしれません。しかし全然慣れていない国に来て、信じるものは神様だけでした。その神様を信じて、自分なりに一生懸命に働くつもりでしたが、やはり人間的な弱さでしょうか。がっかりするようなこともありました。なぜこんなことをしているのか、何のために自分の心を痛めながら働いているのか、そう思うことが実際にありました。何でもないようなことが通じなくて、誤解される場合もありました。相手のためにパンをあげたのに、なぜこんなパンをくれるのかと腹を立てる人もいました。そういう時に慰めになるのは、やはりイエス様の十字架の道です。見守る者もほとんどいなくて、情熱を注いだ弟子たちも全部逃げてしまった人生を考えると、自分自身のことを反省する気持ちになります。イエス様の真似をしようと思ってこの道を選び、応えたのではないか、しかし全然違う考え方を持っているのではないか、と自分を責める時もあります。

さあ、そのようにイエス様が心をこめて伝えようとした話の内容を考えてみましょう。2000年前の十字架の道の前に起こった出来事で、聖書の中で一番大きい奇跡だと言われる5千人以上の人々に食べさせた話です。男の人だけで5千人以上だったのですから、女性をあわせたら2万人以上だったのでしょうか。大体、どんな集まりでも、熱心に集まるのは女性です。男性は、妻に連れられて仕方な

く集まることが多いのです。ですから、大人の男の人が5千人以上いるということは、全部合わせれば何万人にもなると考えられます。その人々に、イエス様がもどかしい心をこめて訴えたことは何だったのでしょうか。とにかく50人ずつ、100人ずつにまとまって、お互いの持ち物を出しあえば、この世の中に飢え死にってしまう子どもたちはいなくなる、というメッセージだったのでしょうか。しかし、2000年経った今でも、私たちはそれを実践できていません。何かを施す時には、それを人に見せようとする弱さばかり持っています。そしてマスコミも、表面的には奉仕をするようなふりをしてながら、実は、自分達の利益を求めているのです。

今の時代をイエス様をご覧になったらどのような気持ちになるのでしょうか。『羊飼いのいない羊の群れのよう』だと思われるのでしょうか。いいえ、もっとひどくなったと思われるのではないのでしょうか。「2000年前に人間になって苦労したことが、無駄になってしまったのではないか。あの十字架の道は何だったのか。」と思われて、心を痛められるのではないのでしょうか。もちろん、2000年の間には、たくさんの優しい信者、立派な信者、そして殉教までした信者がいました。それなのに、世界はあまり変わっていません。そういうことに、私たちはある程度重荷を感じるべきだと思います。利己的なことばかり考えるのではなくて、「イエス様の痛みをどのように助けてあげられるのか」という意識を持つこととそのための具体的な行動が必要だと私は思います。皆様もそう思われるのでしょうか。でも、「自分だけの力で何ができるのか」という思いもあるのでしょうか。けれどもその答えは、2000年の間にきちんとできているのです。ただ、実践する人がいないだけ、少ないだけです。

皆様、ただ聞き流すのではなくて、具体的に考えてみましょう。イエス様の話に耳を傾けようとしてはいますが、最後まで、十字架の道まで、怖がらずにイエス様について行けるのでしょうか。自信がないならば、心をこめてイエス様にその力を求めているのでしょうか。そういうところまで黙想出来るのが信仰の生活ではないかと思いました。

ありがとうございました。